

らい 来ぶらり50

ようこそ GLIMワールドへ!!

今年度から新しくなった図書館コンピュータシステムには、**GLIM**という名前がつけられました。これは **Gakushuin Library Information & Multimedia service system** の略称で、「グリム」と呼びます。GLIMは“生まれたて”で、本領を発揮できるのはまだまだこれからというところですが、ネットワーク時代に対応する開かれたシステムです。今回は検索システムについて、キーワードを挙げて紹介してみます。

青い画面で人待ち顔の端末。誘われるままに何かキーを押すか、キーボードわきの“マウス”に触ってみてください。たちまち現れるメニュー画面の左上「資料問い合わせ」が、まずはあなたの、GLIMワールドへの入り口です……。

Guide — 操作ガイドは「ヘルプ」で —

それぞれの画面には、「ヘルプ」というボタンがあります。今出ている画面について、何か説明が欲しい時は、このボタンを選んでください。ご用とお急ぎでない方は、各画面でこれを選んで一読してみましょう。正しい操作を知っているかどうか、それが求める資料へうまくたどりつくための大切なキーポイントです。

List — 一覧表示は100件まで —

検索後、「ヒット件数」の枠に、検索結果が表示されます。100件以下のヒットであれば、「一覧」ボタンを選択することで、一覧表示させることができます。画面に映りきらない表示は、右の▼を使って画面内に引き出すことができます。

Index — 索引語・類義語が参照できる —

検索値入力画面の各項目に付いた「Index」ボタンを選んでみてください。出てきた画面で任意の単語を入力し、「索引語」を選べばその単語から始まる語が、「類義語」を選べばその単語の類義語が出てきます。検索したい語、「選択」「複写」をマウスで選択すると、その語は複写されて検索値入力画面に戻り、検索値となります。

Map — 配架マップが見られる —

一覧表示の中から見たい書名、続いて「選択」ボタンをマウスで選ぶと、所蔵情報が出てきます。大学図書館、短大図書館については、所蔵情報、「選択」ボタンをマウスで選択することで、配架マップを見に行くことができます。これはぜひ一度試してみてください。

※端末検索について分からないことがあった時は、遠慮なくカウンターに声をかけてください。

GLIMにちなんでグリムのほなし

図書館の新システムGLIMという名の響きは、グリム童話を連想させる。グリム童話は、ヤコブとヴィルヘルムという兄弟が、民間の伝承を聞き集め再現した民話集である。兄ヤコブは、大著『ドイツ文法』によりドイツ語における音韻変化を体系化し（“グリムの法則”と呼ばれる）、近代言語学の基礎を築いたエウイ学者である。彼の生誕200年が祝された1985年は、学習院大学図書館が機械化へ向けて第1歩を踏み出した年でもあることは興味深い。弟ヴィルヘルムも言語学者として兄とともに『ドイツ語辞典』の執筆をしたが、彼には文学的才能があり、『グリム童話』が広く知られ児童に親しまれるようになったのは、彼の美しい文体によるところが大きい。兄弟は性格はちがったが大変仲睦まじく、ほとんど行動をともにした。事典などでグリム兄弟の項を引いてみると、二人の仲良く寄り添う姿が載っていたりする。…仲良く寄り添うといえは図書館入口の正面、樗とむくの木、2本の大木がまるで1本の木のように立っている。共同事業で活躍したグリム兄弟を髣髴させはしまいか…おっと、これはこじつけすぎか。 —グリムに関する本を読みながら、GLIMとの根拠もない因縁を考えてみるのも一興である…。

(編集部)

Welcome to GLIM world! Welcome to GLIM world! Welcome to GLIM world! Welcome to GLIM world! Welcome to GLIM world!

おしらせ

○夏休みも図書館は開いています。

7月21日(金)から9月14日(木)まで、次のとおり利用できます。

平日 8:50~16:30

土曜日 休館(ただし9月2日・9日は12:00まで開館)

○夏休み長期貸出が始まります。

取扱期間 7月7日(金)~9月14日(木)

返却期限 9月18日(月)以降(貸出日によって違います。)

○「論文貸出」の登録受付中

卒論・ゼミ論のテーマが決まった4年生を対象に、通常の貸出とは別枠で「3冊、1か月」の館外貸出をおこなう「論文貸出」の登録を受付中です。1階カウンターへどうぞ。

○グループ閲覧室をご利用ください。

4月から3階にグループ閲覧室が2室できました。利用したい時は、1階カウンターで申し込んでください。

予約: 利用したい日の2週間前から受け付けます。

利用人数: 3人以上12人まで

使用時間: 2時間まで

利用可能時間: 平日 9:00~18:00

土曜日 9:00~16:00

☆休講日には変更します。

FukuGami
福紙まめ知識

本のページのすみがめに折水たまま
かられて残った余分なところを福紙とか
えびす紙などといいます。英語では
(語源を調べてみましょう) dog eat です。

来ぶらり No.50 1995年7月1日発行

発行責任者: 森田道也 編集委員: 篠原三佳 富田正貴

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1

☎03(3986)0221

らい 来ぶらり

祝50号

いちばん嬉しいこと

図書館にとって
“いちばん悲しいこと”って
いったい、何だろう？

そんな問いかけから
『来ぶらり』は始まった。
1983年7月のことである。

“いちばん悲しい”のは、
本を借りる学生が少ないことだと
当時の図書館長は語った。

そして学生諸君の足を
文字どおり「ぶらり」と図書館に向けさせる
ひとつのキッカケとなるように
『来ぶらり』は始まった。

それから12年
今度は逆に
こう問いかけてみようか

図書館にとって
“いちばん嬉しいこと”って
いったい、何だろう？

そりゃあもちろん
学生諸君が
図書館に来てくれること
本を求めて 情報を求めて ……
…そして
『来ぶらり』はいつの日も
諸君と図書館との
「虹の架け橋」を目指している。

※この文章は、『来ぶらり』第1号第1面に掲載された、当時の館長波多野里望先生による文章をもとに、短歌
でいえば「本歌取り」のようなことを編集委員が試みたものです。興味をお持ちの方は、『来ぶらり』バック
ナンバーをご覧ください。

来ぶらり50号発行記念特別企画

来ぶらりイラスト原画展

図書館1階の展示コーナーでは、図書館や
校内の図書室・研究室で所蔵しているさまざ
まな資料を紹介していますが、7月の上旬は
『来ぶらり』通算50号達成を記念して、『来ぶ
らり』の歩みを振り返りつつ、誌面を飾って
きたイラストの原画展を行います。

『来ぶらり』に掲載されてきたイラストの
ほとんどは、図書館で働く人たちの手による
ものです。肉筆ならではの風味を出してきた
イラストの、印刷されたものとはまた違った
雰囲気をお楽しみください。

展示期間 7月5日(水)~15日(土)

どうぞよろしく

—ニュースタッフ紹介—



以前、就職したばかりのころ、たまに雑誌の閲覧で足を向けた図書館、その後はすっかりご無沙汰でしたが、この4月の異動で仕事場として再び足を踏み入れることになりました。昔の重たくちよっと暗い感じの図書館から改装され、ゆったりした空間と検索等の機械化で、公共図書館と同じようになってきていることに驚かされました。が、仕事場となると驚いてばかりもいられません。何の知識もないスタートに耳に入ってくる専門用語が頭の中で交差する間もなく、毎日届く本のラッシュに通る場所を塞がれないようあたふたと受入に励んでいます。(受入係 藤田美佐子)

大学図書館に15年、短大図書館に11年と、学習院に26年お世話になり、またこの4月から大学図書館整理課洋書係として目白にもどってきました。こう書くとおばあさんのようですが、人生の折り返し地点をまわったばかりの中年です。情報の渦に巻き込まれながら端末に向かって頑張っている、図書館を支えるたくさんの裏方の一人として東1号館で仕事をしています。学習院の学生は都心でありながら緑の多い落ち着いたキャンパスで学生生活を過ごせることはとても恵まれていると思います。しかし卒業後でないとそのことを実感してもらえないことはとても残念に思われます。(洋書係 野村恵子)



法経図書センターから大学図書館に参りました。国内はもとより海外からの窓口である学習院大学の Central library で過ごす毎日は、新たな発見や出会いそしてとまどい、まるで新入生といっしょです。それでも、これまでの経験を活かしながら、変わりつつある大学図書館の一員として役に立てるよう頑張っています。応援してください。

これといって特徴のない男ですが、髪の毛が少し茶色なのがひとと違う点でしょう。中学のころは真顔で“髪の毛染めてるの？”と聞かれたものですが、最近はいちももチラホラ。2階カウンターでお待ちしております。(閲覧係 石井博幸)

編集好奇

いつも通る道を歩いていてふと振り返ると、見なれた風景が少し異なって見えることに時々気づきます。また、ちょっとわき道にそれてみても、同じようなことにしばしば気づきます。

この図書館広報誌、回を重ねて50回目の発行になりました。今までに発行されたものをちょっと振り返って、ながめてみるのもおもしろいと思います。(T)

未来は次々過去になる。未来は尽きることなく生まれ出て、過去は無限に蓄積される。私たちが“現在”と感じている“時”は未来に属するのだろうか、過去に属するのだろうか…。

今回は、過去と未来が fifty-fifty の reversible 号です。(S)